

天 空 の 祈 り

～とうとき命に～

(2011)

“Prayer of the Firmament”

Ode to Precious Life

〈花を愛でる〉、〈香を聞く〉という日本の美しい言葉と心。〈耳をすます〉というから〈音楽は心すます〉であろうか。天から与えられた人の命に、心豊にする言葉と音がいくつもあることの幸せを日々感じている。心に聴こえる音を追い求めたいと道を志して、はや数十年の歳月が過ぎ去った。その音、その響きは何なのか・・・苦悩の日々は変わらない

そして、3月11日はやってきた。自然の脅威の前に、人はなすすべもない存在であることを思い知らされた。未曾有の災害を受け、恐怖におののき、喪失感を味わい、力を失った。しかし、人にはその苦悩に立ち向かう生きる力を天から与えられていた。そんな姿を見ながら、私はただ〈祈り〉の気持ちを捧げるしかなかった。

被災された方々のこと、現代社会の脆さ、芸術が〈今〉何を果たせるか、私に一体何ができるのか、多くの思いが脳裏を交錯した。

そんな思いの中、私は再び音を求め続けることにした。人の〈心〉に豊かで強い力を与えることができるのは、文化・芸術でしかないと信じて、いくつもの想いを積み重ねながら音を書きとめようとした。

桜の便りが届きはじめたころ《天空の祈り》は完成した。

〈とうとき命に〉仲間たちと共に、この音を捧げたい。

松下 功